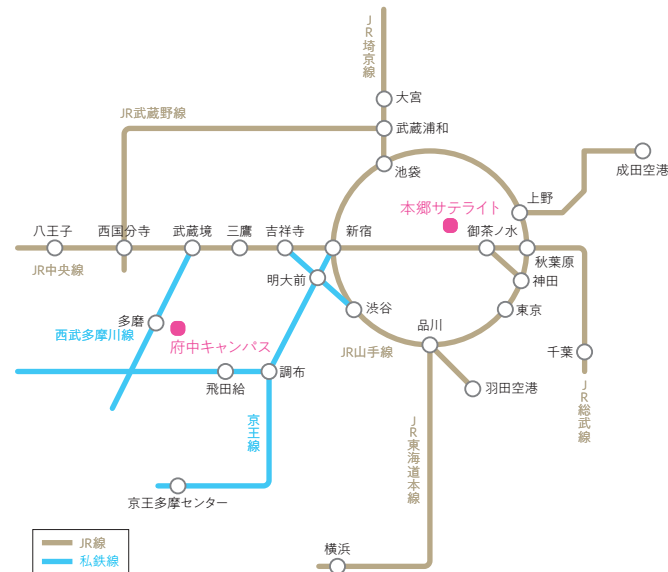




国立大学法人
東京外国語大学
<http://www.tufs.ac.jp>



府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
Tel : 042-330-5111

電車

- JR中央線
「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約35分)
- 京王線
「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

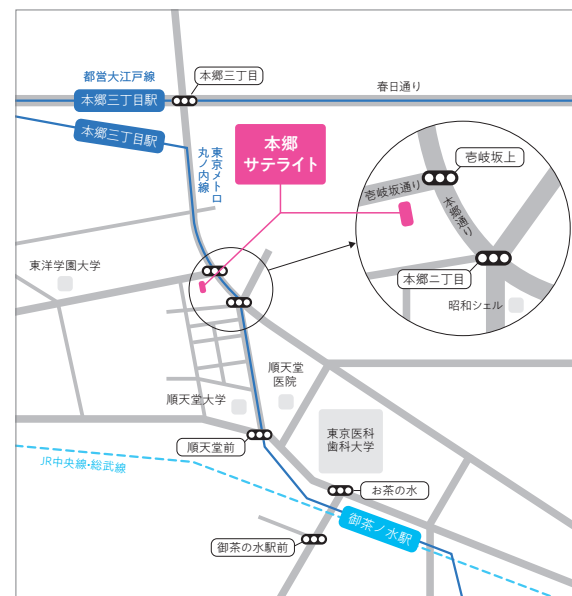
- 京王線
「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車



本郷サテライト

〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-10
Tel : 03-5805-3254

- 地下鉄丸ノ内線・大江戸線
「本郷三丁目」駅下車 徒歩5分
- JR中央線・総武線
「御茶ノ水」駅下車 徒歩10分



概要

2021

目次

3 学長からのメッセージ

4 建学150周年の歴史

6 組織図

8 組織
学部、大学院、学生支援組織……………8
研究組織等……………10

12 大学等との連携

14 役職者一覧

15 東京外国語大学基金

data 基礎データ（2021年5月1日現在）

学生数

4,318人

学部……………3,801人
（言語文化学部1,755人、国際社会学部1,803人、国際日本学部243人）

大学院……517人
（大学院総合国際学研究科 博士前期課程311人、博士後期課程206人）

教職員数

387人

（役員9人、教員*250人、事務系133人）*役員5名含む

留学生数

59か国

591人

（正規生420名含む）

国際学術交流協定校数

71か国・地域

229機関

学長からのメッセージ

多様性を力に変え、 多文化共生に寄与する 東京外国語大学へ

世界の言語・文化・社会を教育・研究する東京外国語大学は、世界の多様性をその存在の前提としています。世界の多様性の源である言語・文化・社会の諸現象を扱い、その特性や変化、互いの関係、接触や衝突の諸相を解明します。そして、それらの知識を踏まえ、異なる言語・文化・社会の間の仲介者となる人材の養成に力を注いできました。世界の一体化に反比例し、世界の多様性に関する本学の教育・研究の意義はより大きくなっています。なぜなら、一体化の進捗に伴い、多様性はさらに顕著になり、調整や仲介の必要は、ますます大きくなっているからです。

そして、私たちは、調整や仲介をするのみならず、接点に立つ立場を利用し、多様性を力に変えていく存在でありたいと願っています。世界には、多くの「差異」が存在します。言葉の違い、文化の違い、民族の違い、宗教の違い、性差、年齢差、貧富の差など。このような中で、相手に関する知識を備え、差異とされるものの源泉と背景をさぐり、それぞれの立場をおもんじる態度は、差異を乗り越えるために不可欠です。それを基礎とし、相手に対し想像力を働かせるなかから、多様性を力に変えていく道が、必ず開けていくと確信します。

私たちの求める多文化共生とは、そのような意味においての共生です。差異のあるものを、隔離するのでも、同化を強要するのでもなく、差異を包括した、新たな展開を生み出す第三の道の成否が、これからの世界の在り方を決めていきます。その進捗に貢献することが、これからの東京外国語大学の使命です。2021年は依然としてコロナ禍に揺れていますが、それを抜けた先の世界では、個々の尊厳、多様性の尊重がより重要になってきます。世界の人々の感情の襞を理解する人材の養成、多様性と共存の道を究明する研究、その成果を実社会に提供する社会貢献。いずれにおいても、ますますの充実に向け、引き続き努力していきます。



東京外国語大学長
林 佳世子

profile

1958年、山口県生まれ。
専門は、西アジア史、オスマン朝史。
1981年お茶の水女子大学文教育学部卒業。
1984年同大学院修士課程修了、1988年
東京大学大学院博士課程退学。東京大学東
洋文化研究所助手を経て、1993年東京外国
語大学外国語学部講師。助教授、教授、学
長特別補佐、副学長、理事を歴任。2019年
4月、学長に就任。

K a y o k o H a y a s h i

150余年の長きにわたる外国学の教育と研究

建学150周年の歴史

本学の歴史はたいへん古く、その起源は江戸幕府により1857（安政4）年に開校された蕃書調所まで遡ることができます。日本における外国研究の歴史は本学の祖となる官営学校によって始まったといっても過言ではありません。1873（明治6）年に官立の東京外国語学校が発足します。その後、高等商業学校附属外国語学校、東京外国語学校、東京外事専門学校、新制東京外国語大学と、統合や改称・改組の歴史を歩んできました。この間、本学は、一貫して世界の言語・文化・社会に関する高度な教育・研究を実践し、国際的に活躍する多くの人材を輩出してきました。2023（令和5）年には建学150周年を迎えます。

沿革

1873	東京外国語学校（官立）、第一大学区東京第四大区二小区一ツ橋通町一番地に開設 5学科（英・仏・独・露・清語）を設置
1874	英語学科が東京英語学校設置に伴い同校に移行、よって4学科（仏・独・露・清語）となる
1880	朝鮮語学科設置
1884	東京外国語学校に所属高等商業学校を設置
1885	仏・独語学科が東京大学予備門に移行、よって3学科（露・清・朝鮮語）となる 東京外国語学校及び同校所属高等商業学校と東京商業学校が東京商業学校として合併
1896	第九帝国議会において衆議院及び貴族院の両院が外国語学校の開設を建議
1897	高等商業学校に附属外国語学校附設 7学科（英・仏・独・露・西・清・韓語）を設置。修業年限3年
1899	高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校（神田錦町3丁目14番地）と改称されるとともに、文部省管轄3官立専門学校の一つとして独立 伊語学科を設置し、8学科となる
1911	新たに5学科（蒙古語、暹羅語、馬來語、ヒンドスタン語、タミル語）を設置し13学科となる 韓語学科を朝鮮語学科に改称
1913	神田大火により校舎全焼 文部省修文館のほか東京高等商業学校分教場の一部を借用し、授業開始 本校敷地内に仮校舎を新築 清語学科を支那語学科に改称
1916	葡語学科を設置し、14学科となる
1919	各学科の名称を部に改正、各部を文科、貿易科、拓殖科に分ける
1921	麹町区元衛町一番地の新校舎に移転
1923	関東大震災により附属建物を除き全焼。牛込区市ヶ谷の陸軍士官学校の一部を借用し授業開始



1915（大正4）年学内競漕大会。
掲げているのは
1907年に作製された大優勝旗

1920（大正9）年上演のロシア語劇
『ボリス・ゴドノフ』



独立当時の正門と校舎
（神田錦町3丁目14番地）

1924	麹町区竹平町一番地の元文部省跡の新築仮校舎に移転
1927	朝鮮語部廃止により13語部となる。修業年限4年に改正
1940	滝野川区西ヶ原町の元海軍爆薬部跡に木造校舎を新築
1941	暹羅語部を泰語部に改称、暹羅語を泰語に改称
1944	東京外事専門学校と改称。修業年限3年に改正 第一部（支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィリピン、イスパニア、ポルトガルの9科）及び第二部（ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、英米の5科）を設置 別科として専修科（修業年限2年）及び速成科（修業年限1年）を設置 麹町区竹平町一番地から書庫を除き滝野川区西ヶ原町の新築校舎に移転
1945	戦災により校舎等全焼 戦災により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術学校、図書館講習所、美術研究所内に移転。7月から授業開始
1946	板橋区上石神井1丁目216番地の習山中学校校舎の一部借用 支那科を中国科に、タイ科をシャム科に改正し、支那語を中国語に、タイ語をシャム語に改称 板橋区上石神井1丁目79番地の東京工業専門学校の電波兵器技術専修学校跡を借用して移転し、9月から授業開始 マライ科をインドネシア科に、フィリピン科をフィリピン科に改称
1949	北区西ヶ原町の校地に戦災復旧木造校舎を新築 国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置（東京外事専門学校を包括して設置）。修業年限4年。 12学科（英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリア、イスパニア、ポルトガル、中国、蒙古、インド、インドネシア、シャム）を設置 元ブラジル駐割特命全権大使澤田節蔵、初代学長に就任
1951	東京外事専門学校を廃止
1954	外国語学部 ¹ に海外事情研究所を開設 留学生別科を設置（1960年に廃止）。修業年限1年。



1955	初めての選挙により教授岩崎民平が第二代学長に就任
1956	専攻科の設置。修業年限1年 専攻課程「英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、イスパニア語、ポルトガル語、中国語、蒙古語、ウルドゥ語、ヒンディー語、インドネシア語、シャム語」の13専攻
1959	外国語学部 ² に語学研究所を開設
1960	留学生課程を設置（1972年に廃止）。修業年限3年
1961	学科を科に改称。イスパニア学科、ポルトガル学科、蒙古学科、インド学科、シャム学科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パーキスタン科、タイ科に改称。アラビア科設置。
1964	科を語学科に改称 タイ科をインドシナ語学科に改称 アジア・アフリカ言語文化研究所を設置
1966	大学院外国語学研究科修士課程を設置
1968	特設日本語学科を設置
1970	北区西ヶ原に附属日本語学校を設置
1971	府中市住吉町5丁目10番地1号の新校舎に附属日本語学校移転 田沢湖高原研究施設を開設（2018年閉館）
1975	大学院外国語学研究科修士課程に日本語学専攻を設置
1977	朝鮮語学科を設置 大学院地域研究研究科修士課程を設置
1980	ベルシア語学科を設置
1984	インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称
1985	特設日本語学科を日本語学科に改組 国際交流会館開設 評議会において府中市関東村跡地への移転について意思決定
1986	附属日本語学校地に留学生教育教材開発センターを設置
1991	ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改組
1992	大学院地域文化研究科博士課程（前期・後期）を設置、外国語学研究科修士課程及び地域研究研究科修士課程を地域文化研究科に統合 インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改組 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改組
1993	アラビア語学科とベルシア語学科を中東語学科に改組 国の機関等移転推進連絡会議において本学の移転場所として東京都府中市旧関東村住宅跡地を決定
1995	外国語学部 ³ を7課程（欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本）3大講座（言語・情報、総合文化、地域・国際）に改組
1996	外国語学部 ⁴ に総合文化研究所を開設
1997	アジア・アフリカ言語文化研究所に情報資源利用研究センターを設置 創立百周年（建学百二十四年）記念式典挙行 府中新キャンパス起工式挙行 情報処理センターを設置
1998	ISEP TUFS（東京外国語大学国際教育プログラム）開設

1999	独立百周年（建学百二十六年）記念式典挙行、『東京外国語大学史』刊行
2000	府中新キャンパスに移転、10月2日より新キャンパスにて授業開始
2001	東京外国語大学本郷サテライト開設
2002	アジア・アフリカ言語文化研究所が府中キャンパスに移転
2004	留学生日本語教育センターが府中キャンパスに移転 国立大学法人法に基づき国立大学法人東京外国語大学設立 国立学校設置法の廃止により、東京外国語大学は国立大学法人東京外国語大学が設置する国立大学となる
2006	大学院地域文化研究科博士前期課程の全専攻を、言語文化専攻、言語応用専攻、地域・国際専攻、国際協力専攻に改組 情報処理センターを廃止し、総合情報コラボレーションセンターを設置 学内附属施設として多言語・多文化教育研究センターを設置
2008	東京外国語大学出版会を設立
2009	大学院総合国際学研究院を設置 大学院総合国際学研究科を設置し、博士後期課程の地域文化専攻を言語文化専攻と国際社会専攻に改組 国際日本研究センターを設置 世界言語社会教育センターを設置
2010	アゴラ・グローバルを開設 アジア・アフリカ言語文化研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
2011	学内附属施設として国際関係研究所を設置
2012	外国語学部を改編し、言語文化学部、国際社会学部を設置 大学文書館を設置 留学生日本語教育センターが教育関係共同利用拠点に認定
2013	学内附属施設として大学連携センター、教育情報化支援センターを設置 社会・国際貢献情報センターを設置
2014	文部科学省スーパーグローバル大学構想（タイプB：グローバル化牽引型）に本学構想「世界から日本へ、日本から世界へー人と知の循環を支えるネットワーク中核大学ー」が採択
2015	国際日本学研究院を設置 留学支援共同利用センター、現代インド研究センター（2016年、南アジア研究センターに改名）を設置
2016	大学文書館が国立公文書館等指定機関に認定 ワールド・ランゲージ・センター（通称LINGUA）を設置 博士前期課程を世界言語社会専攻と国際日本専攻に改組
2017	現代アフリカ地域研究センターを設置
2018	博士後期課程を世界言語社会専攻と国際日本専攻に改組
2019	国際日本学部を設置 大学院博士後期課程に共同サステイナビリティ研究専攻を設置 多言語多文化共生センターを設置

校章の由来



^{たいまつ}
炬火は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字です。左右の羽翼については、1899（明治32）年の本学独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれています。1899（明治32）年、制定されました。

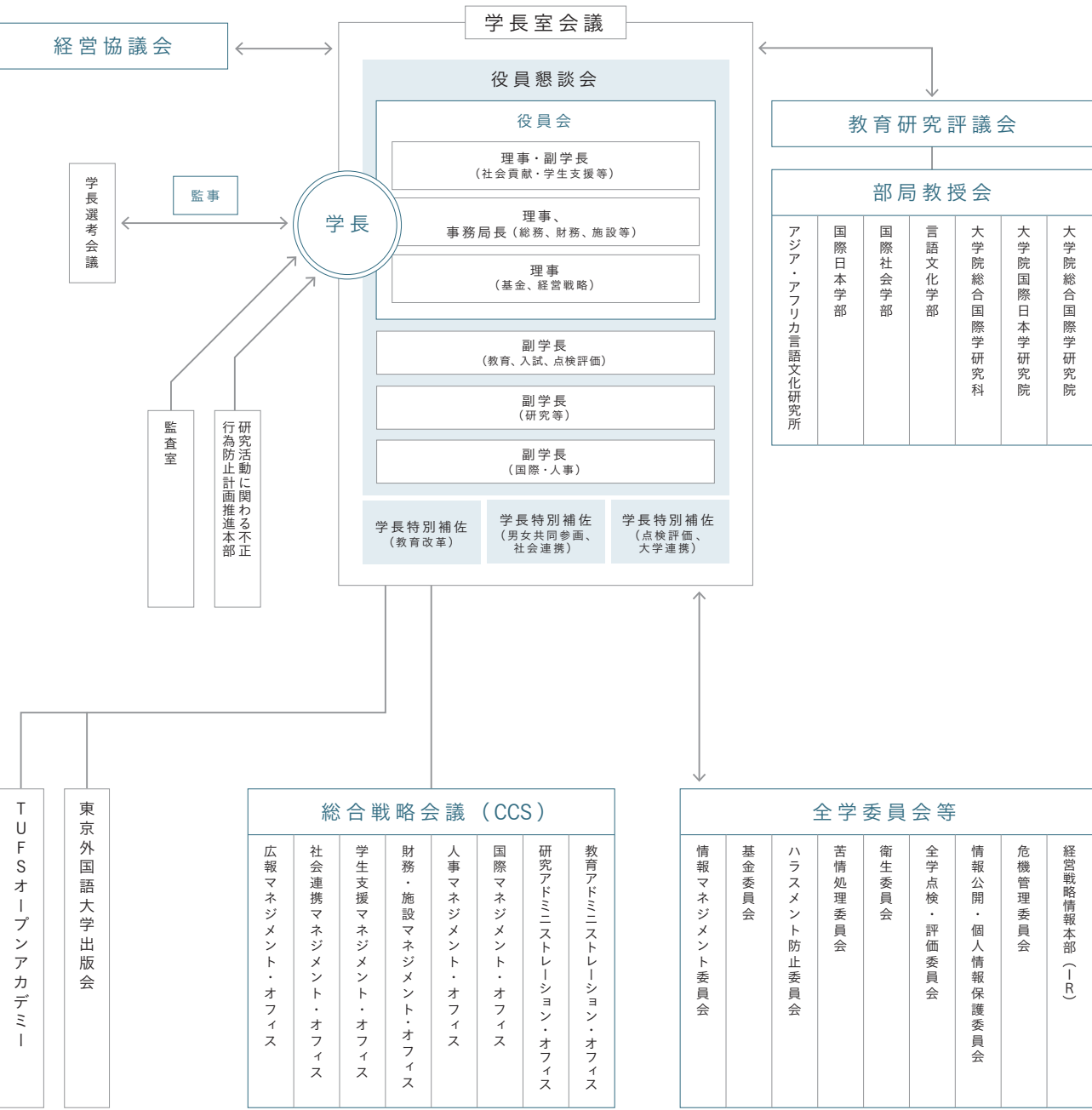
スクールカラー牡丹色の由来

牡丹色

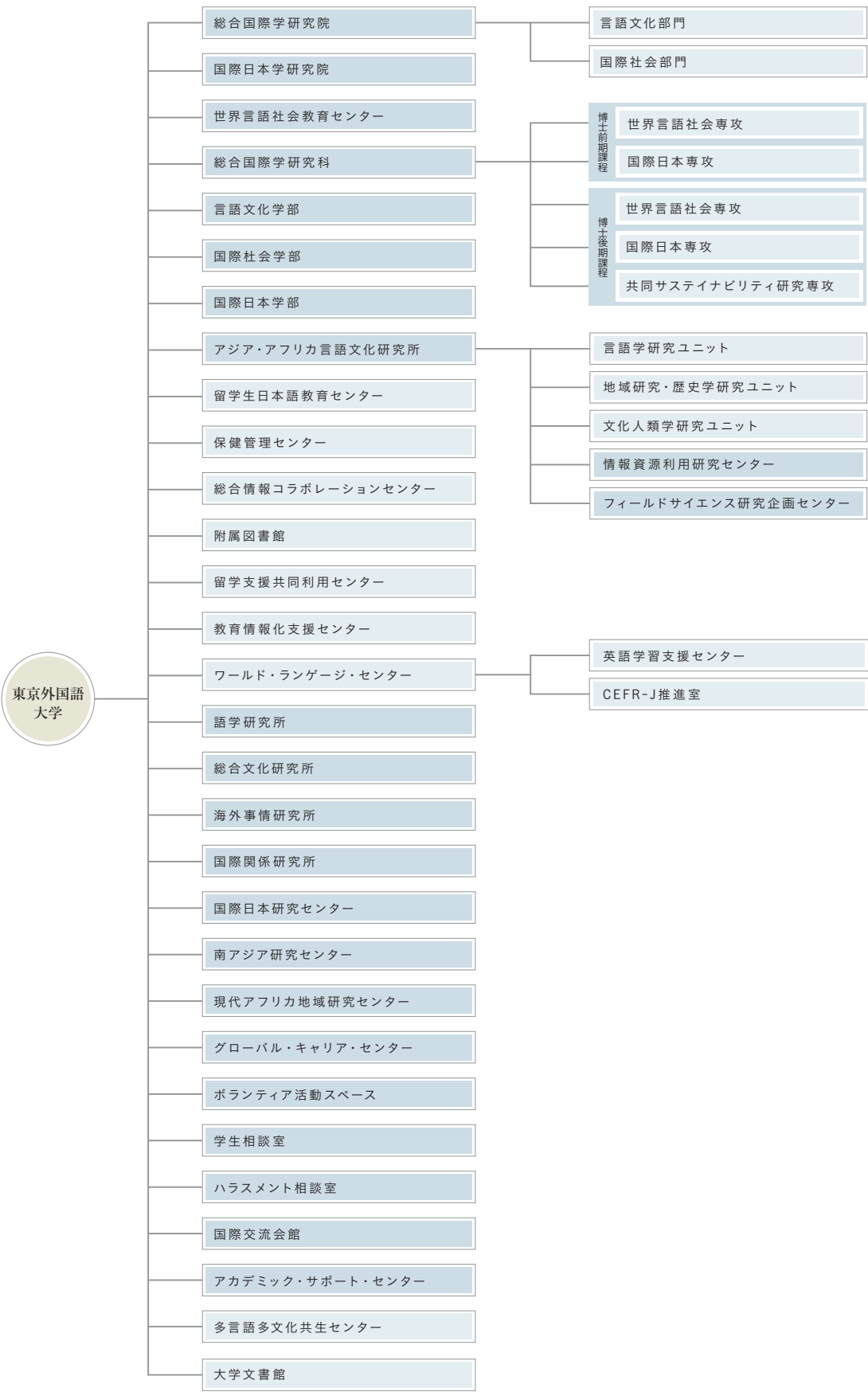
この色の由来は、1920（大正9）年にさかのぼります。当時新たに結成された日本漕艇協会の求めに応じ、加盟各学校は学校色を登録しました。その時、本学が選んだのが牡丹色です。以来、この色は本学のスクールカラーとして親しまれています。

組織図

運営組織図



教育研究組織図



学部



言語文化学部

言語文化学科 □地域コース □超域コース

<http://www.tufs.ac.jp/education/lc/>

世界の多様な地域の人々の言葉に直接ふれることで、ものの考え方、価値観、世界観について学びます。世界のさまざまな地域で、互いに異なる言語と文化のなかで暮らす私たち人間が、相互に認め合い、理解しあって生きてゆくための力、知識、感覚を身につけます。

募集単位
言語

英語 ドイツ語 ポーランド語 チェコ語 フランス語 イタリア語 スペイン語 ポルトガル語 ロシア語
ロシア語およびウズベク語 モンゴル語 中国語 朝鮮語 インドネシア語 マレーシア語 フィリピン語 タイ語 ラオス語
ベトナム語 カンボジア語 ビルマ語 ウルドゥー語 ヒンディー語 ベンガル語 アラビア語 ペルシア語 トルコ語



国際社会学部

国際社会学科 □地域社会研究コース □現代世界論コース □国際関係コース

<http://www.tufs.ac.jp/education/ia/>

世界の現状を正しく把握・分析し、問題の所在をつかみ、日本をはじめとする国際社会がどのように問題解決に関わり、いかにして異なる宗教・民族・文化に対して公平性を確保するか、具体的な地域の問題を取り上げ、国際的な視座から考える方法を学んでいきます。

募集単位
地域

北西ヨーロッパ／北アメリカ 中央ヨーロッパ 西南ヨーロッパ イベリア／ラテンアメリカ ロシア
中央アジア 東アジア 東南アジア第1 東南アジア第2 南アジア 中東 アフリカ オセアニア



国際日本学部

国際日本学科

<http://www.tufs.ac.jp/education/js/>

日本そのものをフィールドとして分野を超え、多角的な視点で日本を捉え直します。私たちが暮らす日本という国を、世界の中に位置付けて学ぶのが国際日本学部です。具体的には、日本の政治・経済・社会・歴史、日本の文学・文化、日本語を学びます。また、世界で日本語を教えるための知識も身につけていきます。



世界教養プログラム（三学部共通のプログラム）

http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glap

学部共通のプログラムとして「世界教養プログラム」を設置しています。プログラムには文科系だけではなく、理科系の科目も用意されており、国際社会で活躍するために欠かせない知性と教養を身につけていきます。専攻言語科目、教養外国語科目、GLIP英語科目、諸地域言語科目などの言語力を身につける授業科目群、専攻する地域についての理解を深める地域科目群、基礎リテラシーや基礎演習などの大学で学ぶための技術を修得する科目、現代教養科目、自然科学系科目、教養日本力科目、スポーツ身体科目、世界言語科目、キャリア・協働科目、臨地学修科目など幅広い教養を身につける授業科目群があります。

大学院



総合国際学研究科

<http://www.tufs.ac.jp/education/pg/>

博士前期課程

世界言語社会専攻
国際日本専攻

世界言語社会専攻には、「言語文化コース」「国際社会コース」「Peace and Conflict Studiesコース」の3つのコースがあります。このうち、Peace and Conflict Studiesコースは、10月入学で、教育はすべて英語で行われます。国際日本専攻には、「国際日本コース」「日本語教育リカレントコース」の2つのコースがあります。このうち、日本語教育リカレントコースは、10月入学で、1年間で学位（修士号）の取得を目指すコースです。

博士後期課程

世界言語社会専攻
国際日本専攻
共同サステイナビリティ研究専攻

世界言語社会専攻には、「言語文化研究プログラム」「国際社会研究プログラム」「アジア・アフリカフィールド研究プログラム」「Peace and Conflict Studiesプログラム（10月入学）」の4つの教育プログラムがあります。国際日本専攻には、「国際日本研究プログラム」があります。共同サステイナビリティ研究専攻は、東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で設置する複合新領域の研究専攻です。

学生支援組織



留学支援共同利用センター

<http://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/>



グローバル・キャリア・センター

<http://www.tufs.ac.jp/student/careersupport/>



ボランティア活動スペース

<http://www.tufs.ac.jp/student/extraordinary/volas/>



アカデミック・サポート・センター

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/>



附属図書館

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>



総合情報コラボレーションセンター

<http://www.tufs.ac.jp/common/icc/>



教育情報化支援センター

<http://www.tufs.ac.jp/csmc/>



ワールド・ランゲージ・センター

http://www.tufs.ac.jp/student/educational_support/lingua.html



保健管理センター

<http://www.tufs.ac.jp/student/health/>



学生相談室

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/sccs/>



ハラスメント相談室

<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/harassment.html>



国際交流会館

http://www.tufs.ac.jp/student/international_student/housing.html



アジア・アフリカ言語文化研究所

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/>

1964年にわが国最初の人文科学・社会科学系共同利用研究所として東京外国語大学に設置されました。アジア・アフリカの諸地域を主な研究対象とし、言語学・人類学・歴史学・地域研究の各分野において、右記の3つの使命のもとに活動を展開します。

- 1……臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく共同研究の推進
- 2……研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
- 3……共同研究や研修・セミナー等を通じた次世代研究者の養成



語学研究所

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/index.html>

日本をはじめ世界諸地域の言語・言語教育・言語科学一般についての先端的な研究・調査を行っています。



総合文化研究所

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>

世界各地の文学・芸術・文化の個別研究と、それらを総合的・複合的に捉える領域横断的研究を行っています。従来にない科学的・批評的視点から新しい「世界概念」を構築することを目指しています。



海外事情研究所

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/>

世界のさまざまな言語を駆使して専門領域の政治・経済・文化の研究調査を行い、学際的共同研究へと発展させます。



国際関係研究所

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/>

現代の国際社会の出来事を、法律・政治・社会学・教育学などの社会科学的分野から考察分析することを研究の中心に捉えています。



国際日本研究センター

<http://www.tufs.ac.jp/icjs/>

日本語・日本語教育、日本文化・社会に関する研究分野について、個別的、総合的かつ複合的視点から調査研究し、その成果を国内外に発信しています。



南アジア研究センター

<http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/>

現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析と文学分析、およびジェンダー視角を軸として研究を進めています。



現代アフリカ地域研究センター

<http://www.tufs.ac.jp/asc/>

現代アフリカに関わる研究や教育に加え、アフリカ研究者の招へいや国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、そのハブとして機能することを目指しています。



多言語多文化共生センター

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

多言語多文化社会の抱える問題解決に寄与することを目標とし、多言語多文化共生センターを設置しています。教育、研究、社会貢献の3部門からなり、異なる言語、習慣、文化をもつ人々が安心して暮らすことのできる多言語多文化共生社会の実現に向けて積極的に活動しています。



大学文書館

<http://www.tufs.ac.jp/common/archives/>

本学の教育・研究活動に関わる資料を継続的に収集・整理・保存し、学内外の方が資料を利用できる環境を整備しています。2016年4月からは国立公文書館等の指定を受け、本学の歴史的文書等の整理・保存を進めています。



TUFSオープンアカデミー

<https://tufsoa.jp/>

社会に開かれた学術的な生涯学習などの場として、TUFSオープンアカデミーを設置しています。約45言語の語学講座や世界を知る教養講座など、年間250講座ほど開講しています。2020年度からオンラインで開講し、国内外問わず多くの方が受講しています。



東京外国語大学出版会

<http://www.tufs.ac.jp/blog/tufspub/>

歴史・言語・文化・地域研究などのジャンルの学術的な著作から、教養書、人文・文芸書などの翻訳、また語学をはじめとする教科書に至るまで、幅広い企画の出版活動に取り組んでいます。



留学生日本語教育センター

<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/index-j.htm>

文部科学省の国費外国人留学生に対する日本語を中心とした予備教育などを行っています。

主な教育・研究プロジェクト（文部科学省による支援期間中のプロジェクト 2021年5月1日現在）

スーパーグローバル大学構想



「世界から日本へ、日本から世界へ」—人と知の循環を支えるネットワーク中核大学—

事業期間：2014年度～2023年度 <http://tufs-sgu.com>

大学の世界展開力強化事業



ロシアとの大学間交流形成支援

「日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム」

事業期間：2017年度～2021年度 <https://tufs-tenkai2rus-jp.com/>



米国等との大学間交流形成支援

「多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践」

事業期間：2018年度～2022年度 <http://www.tufs.ac.jp/tp-coil/>



日-EU戦略的高等教育連携支援

「歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム」

事業期間：2019年度～2023年度 <http://www.tufs.ac.jp/hips/>



アフリカ諸国との大学間交流形成支援

「アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム」

事業期間：2020年度～2024年度 <http://www.tufs.ac.jp/iafp/>

学長	林 佳世子
理事・副学長（社会貢献、学生支援等担当）	武田 千香
理事・事務局長（総務、財務、施設等担当）	平林 正吉
理事（基金、経営戦略担当）（非常勤）	大飼 啓吾
副学長（教育、入試、点検評価担当）	青山 亨
副学長（研究等担当）	中山 俊秀
副学長（国際、人事担当）	松隈 潤
監事（非常勤）	桑原 道夫
監事（非常勤）	渡部 夕雨子
学長特別補佐（教育改革担当）	投野 由紀夫
学長特別補佐（男女共同参画、社会連携担当）	大津 友美
学長特別補佐（点検評価、大学連携担当）	巽 由樹子
学長特命補佐（高大接続等担当）	丹羽 京子
学長特命補佐（就職支援担当）	斎藤 弘子
学長特命補佐（教育支援担当）	吉富 朝子
学長特命補佐（情報セキュリティ担当）	望月 源
学長特命補佐（アラムナイ担当）	浦田 和幸
学長特命補佐（社会連携担当）	荒川 洋平

経営協議会	
公益財団法人日本国際教育支援協会 理事長	井上 正幸
株式会社東京臨海ホールディングス 代表取締役社長	猪熊 純子
一般社団法人東京外語会理事長	鎌原 正直
横浜国立大学名誉教授／ 前放送大学学長	來生 新
伊藤忠商事株式会社代表取締役 副社長執行役員CAO	小林 文彦
杏林大学外国語学部学部長	坂本 ロビン
一般社団法人 まちづくり府中	関谷 昂
国際交流基金理事	柄 博子
学長	林 佳世子
理事・副学長	武田 千香
理事・事務局長	平林 正吉
理事	大飼 啓吾
大学院総合国際学研究院長／ 大学院総合国際学研究科長	鈴木 義一
大学院国際日本学研究院長／ 国際日本学部長	川村 大
アジア・アフリカ言語文化研究所長	星 泉

教育研究評議会	
学長	林 佳世子
理事・副学長	武田 千香
理事・事務局長	平林 正吉
理事	大飼 啓吾
副学長	青山 亨
副学長	中山 俊秀
副学長	松隈 潤
大学院総合国際学研究院長	鈴木 義一
大学院総合国際学研究院副研究院長	佐野 洋
大学院国際日本学研究院長	川村 大
大学院国際日本学研究院副研究院長	鈴木 智美
言語文化学部長	山口 裕之
言語文化学部副学部長	川上 茂信
国際社会学部長	真島 一郎
国際社会学部副学部長	大川 正彦
国際日本学部長	川村 大
国際日本学部副学部長	フィリップ・シートン
アジア・アフリカ言語文化研究所長	星 泉
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	渡辺 己

総合戦略会議	
学長	林 佳世子
理事・副学長	武田 千香

理事・事務局長	平林 正吉
理事	犬飼 啓吾
副学長	青山 亨
副学長	中山 俊秀
副学長	松隈 潤
大学院総合国際学研究院長	鈴木 義一
大学院国際日本学研究院長／ 国際日本学部長	川村 大
言語文化学部長	山口 裕之
国際社会学部長	真島 一郎
アジア・アフリカ言語文化研究所長	星 泉

総合戦略会議（各オフィス長）	
教育アドミニストレーション・オフィス長	青山 亨
研究アドミニストレーション・オフィス長	中山 俊秀
国際マネジメント・オフィス長	松隈 潤
人事マネジメント・オフィス長	松隈 潤
財務・施設マネジメント・オフィス長	平林 正吉
学生支援マネジメント・オフィス長	武田 千香
社会連携マネジメント・オフィス長	武田 千香
広報マネジメント・オフィス長	中山 俊秀

学長選考会議	
公益財団法人日本国際教育支援協会 理事長	井上 正幸
一般社団法人東京外語会理事長	鎌原 正直
横浜国立大学名誉教授／ 前放送大学学長	來生 新
杏林大学外国語学部学部長	坂本 ロビン
一般社団法人 まちづくり府中	関谷 昂
国際交流基金理事	柄 博子
理事（財務、施設等担当）・事務局長	平林 正吉
大学院総合国際学研究院長	鈴木 義一
大学院国際日本学研究院長／ 国際日本学部長	川村 大
言語文化学部長	山口 裕之
国際社会学部長	真島 一郎
アジア・アフリカ言語文化研究所長	星 泉

言語文化学部	
言語文化学部長	山口 裕之
副学部長	川上 茂信
言語・情報学類長（兼 言語・情報コース長）	加藤 晴子
総合文化学類長（兼 総合文化コース長）	鈴木 聡
グローバルコミュニケーションコース長	根岸 雅史

国際社会学部	
国際社会学部長	真島 一郎
副学部長	大川 正彦
地域社会研究コース長	丹羽 泉
現代世界論コース長	加藤 美帆
国際関係コース長	鈴木 美弥子

国際日本学部	
国際日本学部長	川村 大
副学部長	フィリップ・シートン

大学院総合国際学研究院	
研究院長	鈴木 義一
副研究院長	佐野 洋
副研究院長	千葉 敏之

大学院国際日本学研究院	
研究院長	川村 大
副研究院長	鈴木 智美

副研究院長	フィリップ・シートン
-------	------------

大学院総合国際学研究科	
研究科長	鈴木 義一
研究科長代理	川村 大
副研究科長	千葉 敏之
副研究科長	鈴木 智美

アジア・アフリカ言語文化研究所	
アジア・アフリカ言語文化研究所長	星 泉
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	渡辺 己
情報資源利用研究センター長	高松 洋一
フィールドサイエンス研究企画センター長	床呂 郁哉

全学センター等	
世界言語社会教育センター長	青山 亨
留学生日本語教育センター長	鈴木 智美
保健管理センター所長	武田 千香
総合情報コラボレーションセンター長	中山 俊秀
附属図書館長	中山 俊秀
留学支援共同利用センター長	松隈 潤
教育情報化支援センター長	青山 亨

ワールド・ランゲージ・センター長	投野 由紀夫
語学研究所長	風間 伸次郎
総合文化研究所長	沼野 恭子
海外事情研究所長	岩崎 稔
国際関係研究所長	宮田 敏之
国際日本研究センター長	友常 勉
南アジア研究センター長	栗屋 利江
現代アフリカ地域研究センター長	武内 進一
グローバル・キャリア・センター長	斎藤 弘子

ボランティア活動スペース室長	萩尾 生
学生相談室長	武田 千香
国際交流会館館長	松隈 潤
多言語多文化共生センター長	小島 祥美
TUFSオープンアカデミー院長	大津 友美
大学文書館長	吉田 ゆり子
アカデミック・サポート・センター長	布川 あゆみ

事務局	
事務局長	平林 正吉
総務企画部長	君塚 剛
総務企画課長	佐伯 季之
人事労務課長	水村 直人
会計課長	原 美香
施設企画課長	七部 俊夫
研究協力課長	藤崎 英朗
学術情報課長	貴村 好隆
国際化拠点室長	宮下 晶子
情報企画室長	今井 健二
広報・社会連携室長	木村 晴茂
教務課長	今坂 良明
学生課長	大野 智子
入試課長	三浦 吉永
留学生課長	高尾 敏史
研究院事務課長	富田 章

監査室	
内部監査室長	松隈 潤
監査室事務室長	山口 登之

東京外国語大学基金

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本学の学生の多くもさまざまな

困難に直面しています。

本学では経済状況が悪化した学生に対し、本学修学支援事業基金を活用した独自の奨学金制度や食糧支援などを実施してきました。今後、更にこうした支援を拡大していくため、皆様のご理解と温かいご支援をいただければと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、修学支援事業基金へのご寄附については、確定申告により税制上の優遇措置（寄附金控除）が適用されます。基金の目的区分及び税制上の優遇措置の詳細については、東京外国語大学基金ホームページをご覧ください。

寄 附 の 使 途 ・ 支 援 事 業

I 修学支援事業基金

経済的理由により修学が困難な学生支援

●海外留学の支援 ●留学生の受入支援 ●給付型奨学金等

II グローバル・キャンパス支援基金

多言語グローバル人材教育活動支援

●ダイバーシティ推進 ●キャリア教育 ●課外活動支援

国際的な研究活動支援

●若手研究者等の海外研究活動 ●優れた外国人研究者の招聘 ●研究成果の出版活動等助成

社会貢献活動支援

●多文化共生のための活動支援 ●世界諸地域に関する情報発信 ●国際的ボランティア活動支援

III 研究等支援事業基金

学生への研究支援

●研究活動支援 ●研究活動の研究発表等への支援 ●異分野の研究者等との交流支援

東京外国語大学へのご寄附は、税制上の優遇措置（寄附金控除）を受けることができます。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた学生への支援事業として、大学生協食堂で利用できる食券を配付したほか、キャンパス内においてフードパントリー（食品などの配布）を計4回実施しました。

ご寄附の お申し込み方法

1.国内在住の皆さま

次のいずれかでご寄附の払い込みが可能です。

- 銀行・ゆうちょ銀行からのお振り込み
- クレジットカードによるご入金
- コンビニエンスストアでの決済
- 現金によるご入金

2.海外在住の皆さま

時差や為替手数料に煩わされない、東京外国語大学基金ホームページからのクレジットカードによるご寄附が便利です。

◎遺贈（遺言、相続財産、香典）によるご寄附も承っております。ご寄附に対しては相続税法上の優遇措置が受けられます。大学ではご相談いただいた方に提携銀行のご紹介をいたします。



<http://tufs-fund.jp/>

詳しくはWebサイトをご覧ください、
ご不明な点がございましたら右記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

東京外国語大学

総務企画課 基金担当 9：00～17：00（土日祝日除く）

Email: tufs-fund@tufs.ac.jp

TEL：042-330-5126／FAX：042-330-5140